

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：半促成メロンの果実肥大と糖度を向上させる遊びづるの整枝方法			
<p>[要約] メロンのハウス半促成立ち作り 1 株 2 つる 4 果どり栽培では、子づる先端の孫づるを遊びづるとして 2 本残し、定期的に摘心することにより、収穫時の遊びづる長を 1 m 程度にする。このように遊びづるを残すことにより、果実の肥大及びネットの発生が良好で糖度の高い果実が生産できる。</p>			
キーワード（専門区分） 栽培		（研究対象）野菜類 - メロン	
（フリーワード） メロン		遊びづる 整枝 果実 肥大 糖度	
<p>実施機関名 （主査）農業総合研究センター北総園芸研究所東総野菜研究室 （協力機関） （実施期間） 2001 年度～2003 年度</p>			

[目的及び背景]

銚子地域で普及しているメロンのハウス半促成立ち作り 1 株 2 つる 4 果どり栽培では、果実の肥大や品質向上を目的に、子づる先端の孫づるを数本、遊びづるとして残しているが、この遊びづるの効果は明らかでない。そこで、遊びづるを利用する整枝方法が果実肥大や糖度に及ぼす影響を明らかにする。

[成果内容]

- 1 . メロンのハウス半促成立ち作り 1 株 2 つる 4 果どり栽培では、2 本の子づるそれぞれの先端に孫づる 2 本を遊びづるとして残し、遊びづるに自然着果する果実を随時、摘果することにより、果実の肥大が進み、ネットの発生が良好で、糖度が高くなる（表 1）。また、遊びづるを利用することにより、高糖度果実の発生割合が高くなる（図 1）。
- 2 . また、伸長した遊びづるが着果位置の茎葉を遮光しないよう、収穫時の遊びづる長 1 m を目安に定期的な整枝を行うことにより、糖度が高くなり（表 2）、高糖度果実の発生割合が高くなる（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 栽植密度は、ハウス半促成立ち作り栽培で 10 アール当たり 740～820 本程度と低めに設定し、秀品率の向上を図る。
- 2 . 交配前の生育が揃わない場合は、一斉着果を優先し、交配前に茎葉を誘引し、着果位置を揃える。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 ハウス半促成メロン立ち作り栽培における遊びづるの整枝及び摘果の有無

試験区	遊びづる重 (g/株)	摘果重量 (g/株)	果重 (g/果)	ネット	胎座部糖度 (Brix)
放任+摘果	2,010 a	378	1,120 a	3.0(65)	16.0
遊びづる無	-	-	1,150 a	3.1(57)	15.5
放任+無摘果	1,460 b	-	1,050 b	2.2(96)	15.8

- 注)・品種「アムス」、平成14年2月7日播種、3月8日定植、子づる2本整枝1株4果どり
- ・摘果重量は7日ごとに摘果した総重量
 - ・ネットは果実ごとに発生程度を5(良)~1(発生不良)と評価したものの平均値、括弧内の数字は3以下の発生割合
 - ・6月20~22日収穫、調査
 - ・右肩の異なるアルファベットはRyanの多重比較による有意差(5%)があることを示す

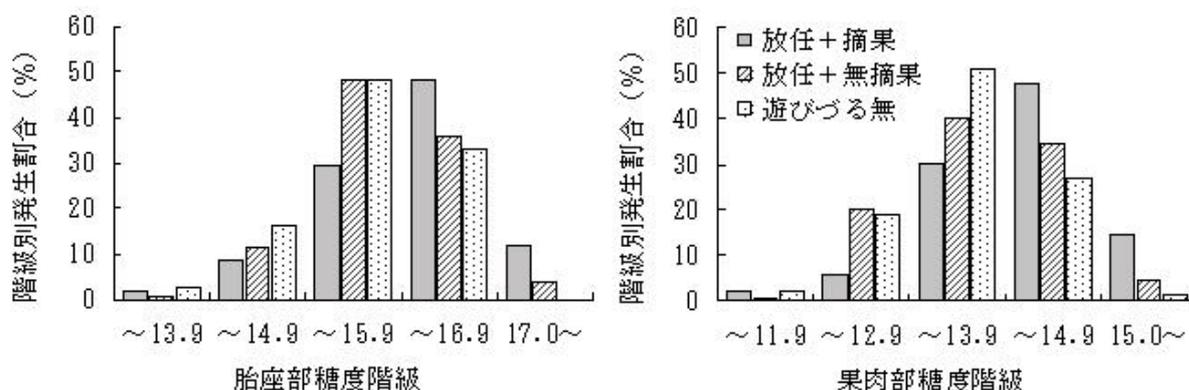


図1 遊びづるの整枝・摘果の有無と糖度の分布

表2 ハウス半促成メロン立ち作り栽培における遊びづるの整枝方法

試験区	子づる重 (g/株)	遊びづる重 (g/株)	果重 (g/果)	ネット	胎座部糖度 (Brix)	果肉部糖度 (Brix)
整枝	1,630	680 c	1,170	3.4	16.9	14.9
放任	1,660	2,430 a	1,140	3.6	16.3	14.2
強整枝	1,680	1,060 b	1,140	3.6	15.7	13.7
遊びづる無	1,790	-	1,170	3.6	16.0	13.7

- 注)・品種「アムス」、平成15年1月31日播種、3月10日定植、子づる2本整枝1株4果どり
- ・整枝は垂れ下がるつるの長さが概ね1m以下になるように整枝、強整枝は放任していた遊びづるを交配45日後から概ね1m以下になるよう整枝
 - ・ネットは表1に同じ
 - ・6月19日収穫、調査
 - ・右肩の異なるアルファベットはRyanの多重比較による有意差(5%)があることを示す

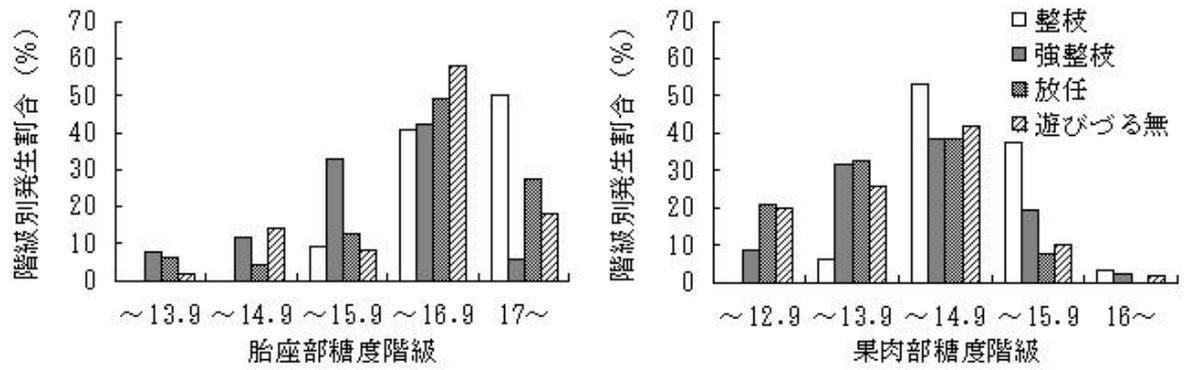


図2 遊びづるの整枝法と糖度の分布

[発表及び関連文献]

平成12、13、14年度野菜試験成績概要集 (公立) 関東東海 () 野菜茶業研究所編